

2020年7月9日

米海軍厚木航空施設司令官 ロイド B. マック大佐様

厚木基地爆音防止期成同盟 委員長 石郷岡忠男

第五次厚木基地爆音訴訟原告団 団長 大波 修二

原子力空母の母港化に反対し基地のない神奈川をめざす県央共闘会議

共同代表 高久 保

神奈川平和運動センター 代表 福田 護

オスプレイの厚木基地拠点使用、戦闘機の離着陸など、危険な運用を中止する
よう求める申し入れ書

わたしたちは、米軍基地による被害を訴え、平和で静かで安全な生活を求めて活動している市民団体、労働団体です。

この間の海兵隊機の離着陸、および MV22 オスプレイの厚木基地を拠点とした飛行について、それらが引き起こす爆音と、航空機の不具合の放置、日米合意違反の飛行などに抗議し、地域住民に恐怖を与える基地運用をすぐに中止するよう訴えるため来訪しました。

6月5日、岩国基地所属の海兵隊機 FA18C が4機、厚木基地に飛来しました。

厚木基地が住宅密集地の真ん中にあるため、爆音や落下物など事故の被害が多くの住民に及ぶことから、空母艦載機を移駐したのではないのでしょうか。その基地に戦闘機が飛来することはあってはいけないことです。

この4機は、その日のうちに、訓練飛行に出ますが、うち2機が早めに戻ったかと思うと、滑走路周辺に緊急用車両が集まり、着陸した1機を取り囲む様子が見受けられました。不具合を生じたことは明らかです。しかし、その後、この機も含めた4機が2度目の訓練飛行に出ました。

翌日、厚木基地を拠点に2度の訓練飛行に出ますが、その2回目にやはり離陸後すぐに引き返し、そのまま、横田基地に向かいました。誰が見ても不自然な飛行でトラブルを抱えていたことは歴然です。

厚木基地からは空母艦載機の固定翼機がいなくなり、整備点検を担当するスタッフも常駐していません。飛行前後に整備点検を施さず、加えて不具合を生じた機もそのまま飛ばしていたことに、慄然とせざるを得ません。そのような運用は米軍のルールをも逸脱しているのではないのでしょうか。1977年、横浜市緑区（現青葉区）にRF-4Bファントムが墜落したのも離陸直後のことでした。あのような惨劇を繰り返そうというのでしょうか。

6月29日、普天間基地所属の海兵隊機MV22オスプレイが4機飛来しました。2012年の日米合意では、オスプレイは住宅密集地を避けて飛ばねばならないとしています。飛来すること自体が合意違反です。しかも相模原市、大和市の住宅地上空では転換モードで飛行していたことが多くの市民に目撃されています。これも安全上、市街地上空では転換モードで飛行しないことになっている日米合意に違反する危険な行為です。さらに、その日の夜、東富士に訓練飛行に出ていることも確認しています。また、翌日には、雨で視界不良の中、市街地上空を何回かにわたり飛行しています。

オスプレイについて、わたしたちは機体構造からくる欠陥を何度も指摘してきました。ここでそれを繰り返す紙幅はありませんが、その指摘に対する米軍からの反論を聞いたためしがありません。オスプレイの安全性に対する懸念を今以てぬぐい去ることができないのはそのためです。その結果として、全国でオスプレイの飛来に対して反対の声が上がっているのです。昨年12月の日米実動演習で、拠点となった明野駐屯地を抱える伊勢市長が、反対の声明を出したのがその一例です。

あらためてわたしたちの要求を列挙します。

- 1 海兵隊機、海軍機を問わず、戦闘機の離着陸を厚木基地で行わないこと。
- 2 オスプレイの厚木基地への飛来をさせないこと。住宅密集地での飛行を行わないこと。

以上です。